



7 保連第 2 号

(令和 8 年 3 月)

発行：宇治市乳幼児教育・保育支援センター

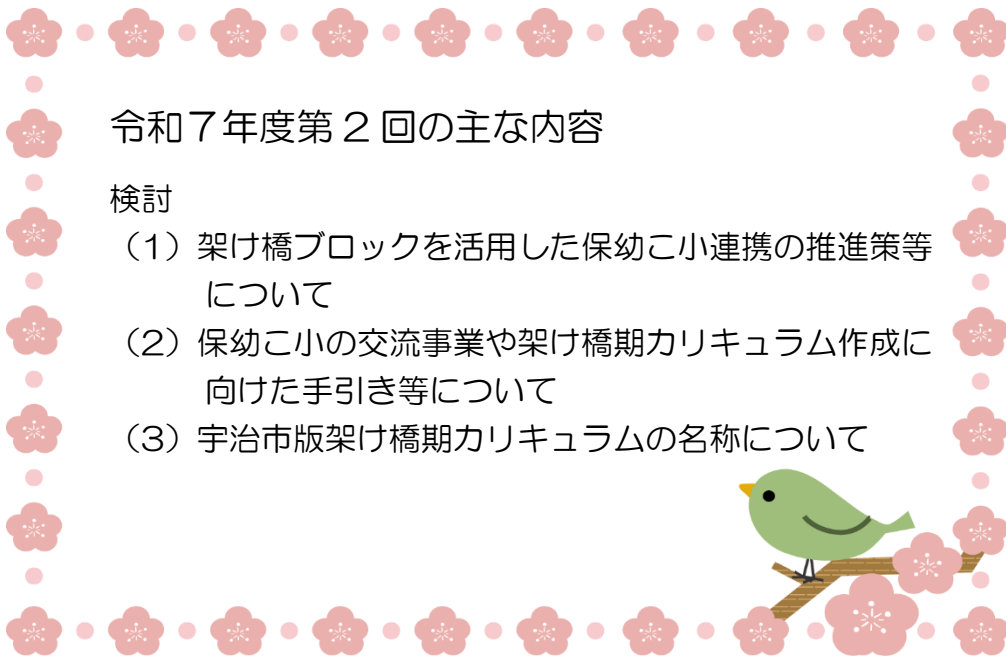
アドレス：nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp



乳幼児教育・保育推進事業 通信  
～令和 7 年度 保幼小連携専門部会～



令和 7 年 12 月 24 日（水）に、令和 7 年度第 2 回宇治市乳幼児教育・保育推進協議会 保幼小連携専門部会を開催いたしました。  
部会の様子をお知らせします。



令和 7 年度第 2 回の主な内容

検討

- (1) 架け橋ブロックを活用した保幼小連携の推進策等について
- (2) 保幼小の交流事業や架け橋期カリキュラム作成に向けた手引き等について
- (3) 宇治市版架け橋期カリキュラムの名称について



専門部会とは

「研究・研修」「保幼小連携」「発達・子育て支援」の推進にあたり、現状の把握、課題抽出、対応策の検討、研究・研修の企画実施について、乳幼児教育・保育の実務をよく知る職員の意見を反映できる仕組みとするために設置したものの。



## ○検討



### (1) 架け橋ブロックを活用した保幼小連携の推進策等について

- ・打合せはメール等を利用し短時間で行えるようにするとよい
- ・お互いのカリキュラムの負担にならないようにするために、今あるカリキュラムに交流を入れていくとよい
- ・園バスがない施設は移動に時間がかかるので実際の活動時間が短くなってしまうなど、交流時の距離の問題は課題である。
- ・就学前施設での活動は子どもが興味を持ったことを起点としているので、早い時期に交流日時を決めてしまうことで、無理やり感が出てしまわないか懸念している。

### (2) 保幼小の交流事業や架け橋期カリキュラム作成に向けた手引き等について

- ・手引き等ありきで継続していくことは難しいのではないかと。
- ・方向性をきちんと示したものがあことは決して悪いことではない。
- ・架け橋期のカリキュラム作成において、宇治市の「めざす子ども像」を明確にして連携の柱にしていけないと骨組みはできにくいのではないかと。
- ・「めざす子ども像」を共通で考えられる時間があるとよい。
- ・手引きや連携ファイルは簡素化した方が長続きする

### (3) 宇治市版架け橋期カリキュラムの名称について

- ・「カリキュラム」は教育的で固いイメージがある
- ・協働による取組なので「プログラム」のようなニュアンスの名称がよい。
- ・「架け橋」「つながり」という、「接続する」という意味合いの言葉がよい。



## 宇治市乳幼児教育・保育支援センターとは

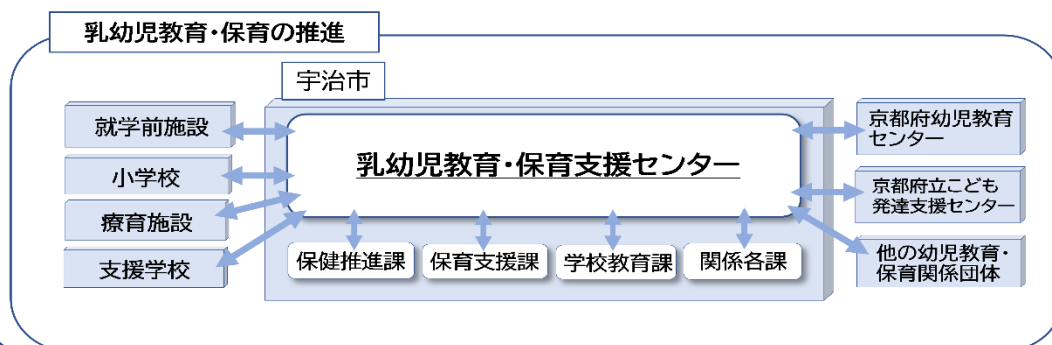
宇治市乳幼児教育・保育支援センターは、全ての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築し、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有するとともに、将来を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、次の3つの機能に基づく施策を推進することにより、保育士、教諭等の人材育成を図り、もって乳幼児教育・保育の質の向上に資することを目的として、令和7年4月に開設しました。

### <3つの機能>



宇治市では、センターにおいて、就学前施設、小学校、療育施設及びその他の関係機関が連携・協働できるようコーディネートすることにより、施策を推進します。

### <連携・協働のイメージ>



## 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会とは

すべての就学前施設が施設類型を越えたネットワークを構築すべく、乳幼児期の子どもたちの状況や課題を共有し、連携、協働して研究・研修を行うことで、教育・保育の質の向上及び人材育成を図るとともに、各施設間、家庭・地域の教育・保育力の確保・向上を支援するため、設置したものの。